

栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 一般社団法人栃木県社会福祉士会
 TEL 028-600-1725 発行責任者 松永千恵子
 FAX 028-600-1730 編集責任者 福原 健治
 ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

59号

発行日 令和5年1月20日

羅針盤



ヤングケアラーについて

こだま社会福祉事務所 児玉 幸弘



羅針盤	1
トピック	2~3
会長の視点	3
授産製品・店舗紹介	4
今日の一冊	4
福祉士おもしろのたけりレー	5
ニューフェイス紹介	5
情報の広場	5~6
福祉士会通信	6~8
講師派遣事業のお知らせ	8
フードバンクにご協力ください	8
栃木県社会福祉士会 メールマガジン登録のご案内	8
会報についてのご意見募集	8
編集後記	8

昨今「ヤングケアラー」という言葉をよく聞くようになっていませんか？ただ、正確なイメージを描いている方は少ないのではないかと思います。

「ヤングケアラー」の定義は決まっていません。しかし、世間的には私も会員である（一社）日本ケアラー連盟の定義が多く使われています。すなわち、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子どものこと。」です。

このヤングケアラー問題を取り上げた中心に同連盟があり、2015年の新潟県南魚沼市、2016年の神奈川県藤沢市での教職員アンケート調査・報告からメディアの注目が始まりました。そして、同連盟が協力して2020年に埼玉県が全国初のヤングケアラーを含めたケアラー支援条例を施行。同年と翌年には厚労省が全国規模のヤングケアラー調査を実施し、今年度からはヤングケアラー支援体制強化事業もスタートしました。

栃木県では昨年3月に那須町が県内初の条例を成立。県においても今年度からケアラー支援に関する有識者等意見交換会（県士会から私が推薦されています。）を設置、実態調査も行われました。さらに、栃木県議会とちぎ自民党が条例化に取り組んでいます。

すでに国や多くの自治体が取組を進めていますが、10年にわたってケアラー支援に取り組んできた私からすると、ブームとも言える今の状況には危惧が生じています。それはヤングも含めたケアラー問題の本質は根強くある「家族主義」が主であり、耳目を集める中でそれが不可視化しそうだからです。ケアとは何かという考察もからめて皆さんにはヤングケアラー問題の背景も見ていただきたいと思います。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りを行っている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている





ヤングケアラー支援

栃木県内での活動や、実践されている社会福祉士をご紹介します。

ヤングケアラー支援

那須塩原市社会福祉協議会 **柴田 直也**



ヤングケアラーに関わる活動としては、那須塩原市で実施している市民や医療福祉関係者らが地域課題を共有し、その解決のために実践していく「にしなすケアネット」から生まれたヤングケアラー協議会がある。協議会の開催は月1回で、市民、医療・福祉・教育関係者、ケアラー当事者、主任児童委員、市議会議員、行政職員などの多岐に渡るメンバーで構成している。主な活動としては2つあり、市民や関係者への理解啓発活動。特に学校での啓発に力を入れている。2つ目はサポート体制の強化だ。地域の実例を基にケース検討を行い、子どもや家族の状況からどのような関わり、サポートができるかを共有したり、地域の活用できる制度や活動を学んだりしている。こんな活動・仕組みがあったらいいな、というものは実現化し、LINEを使った相談事業、当事者たちが集う「ヤング&若者ケアラーズサロン」を展開している。

制度として活用できるものは乏しく、多機関で把握した家庭全体の情報を共有し、チームで役割を決めていくことも重要である。活用している社会資源としては子どもの居場所や幼稚園等との連携による参加支援を通して地域とのつながりを作るなどオーダーメイドのサポートをしている。世帯を構成する人数が減り、ケアを担わざるを得ない現在の若い世代。彼らを支える仕組み、地域づくりが求められている。大切なことは、ケアをしているから、ケアラーだからという側面にとらわれるのではなく、どう暮らし、生きていきたいか、その人、その家庭の本質と向き合い、継続的に関わることである。単なるヤングケアラーブームで終わらせないソーシャルアクションも求められている。



ケアラー LINE 相談
那須塩原

ヤングケアラー支援 (SSWrとしての実践報告)

「子どもの想いを聴くことから始めよう」

大田原市役所 学校教育課 主査(社会福祉士)
大田原市教育支援センター 相談統括 SSWr **馬籠 清貴**



スクールソーシャルワーカーは、不登校、いじめ、児童虐待、子どもの貧困など、教育分野で問題を抱えた子どもに対し、ソーシャルワーク実践を行っています。学校では、先生方が日々子ども達の様子を観察しながら教育活動を行っており、子ども達の生活課題を発見しやすい場所でもあります。最近では、ヤングケアラーの子ども達を早期に発見し、関係機関と連携して適切な支援につなげるといった役割を期待されており、スクールソーシャルワーカーへの期待も高まっています。例えば、宿題の未提出や遅刻、授業中に寝てしまうなどの行動が増えてきたといった場合、家庭内の家事を担うことで宿題をする時間がない、きょうだいの世話で睡眠時間が十分に取れていないといった事情が見

えてくることもあります。また、不登校や自傷行為などの形で表面化することもあります。ヤングケアラーの子ども達と出会ったときに、我々大人が「かわいそう」「不憫だ」という思い込みで支援してしまうと、子ども達を逆に追い詰めてしまうこともあります。子ども達の中には、家族を助けたいという強い想いを持ってケアしている子もいるため、そういう気持ちを無視してしまうことにもなりかねません。子ども達の声を聴き、家族のケアを担う子どもたちの責任感や家族への想いを尊重していくことから始めることが何より大切です。これまで出会った子の中で、こんな言葉をくれた子がいました。「自分が納得するまで挑戦したからこそ、前向きに次へ進めた。前よりも笑顔が増えた」。

ヤングケアラー支援

児童家庭支援センターちゅうりつぷ **片桐 洋史** **滝澤 いずみ**



ヤングケアラー支援 その1 (ショートステイ)
中2のA君は小3のB君の世話をしています。お

母さんはいますが、日中、仕事に行くためA君がB君の昼食を作っています。A君、B君とも登校してい

ません。

ただ当センターのショートステイを月2回(計6日間)利用するときは生活の流れで登校しています。先日、B君は校外学習へ参加でき、朝、お弁当を持たせて送り出しました。夕方、迎えに行くと先生は「一日中、本当に楽しそうで、ずっと笑っていました。」と話されました。最近では「俺たし算がよくできるんだ。たし算好きかも。」とニコニコして話しています。兄のA君は、はじめ下校時の様子がぎこちなかったのですが、月6日の登校を続けるうちに、担任の先生との会話で柔らかい笑顔が見られるようになりました。

ヤングケアラー支援 その2 (弁当配達)

2021年12月より2022年12月まで毎週金曜日(週1回)、ヤングケアラーの家庭6世帯にお弁当を運んでいます。施設で作った夕食(毎回20食分ほど)をデリバリー用のお弁当容器に詰めて宅配ボランティアさん

が届けています。

「いつも温かいお弁当、ありがとう。」「おべんとうやさん、いつもおべんとう、ありがとう。」といった、かわいいお手紙も受け取っています。

先日、市役所から電話が入りました。「お弁当を届けている〇〇さん(小4)だけど、今まで学校に行けなかったのに、最近、学童保育に行けるようになったんですよ。一度も学校に行けなかった子が学校に行き始めたんです。これもお弁当のおかげです。本当にありがとうございます。」

この弁当配達にはNPO法人フローレンス様、日本財団様からのご協力で実現しました。一番遠くの家まで1時間かけて運んでくださるボランティアの皆さん方にも感謝いたします。地域のささやかなつながりが、少しずつ他の地域にも広がっていくことを期待しています。

会長の視点

ヤングケアラー、社会福祉士になる。

一般社団法人栃木県社会福祉士会

会長 松永 千恵子



昨年の4月、卒業研究のゼミを決定するときだった。ある4年生の女子学生がわたしの卒業研究のゼミに入りたいとやってきた。卒業研究のテーマは「難病「アミロイドーシス」を患っている患者への生活支援」であるという。なぜ、「アミロイドーシス」をテーマにするのかを尋ねたところ、お母様がこの難病を患っていたからだという。

「アミロイドーシス」は、平成27(2015)年1月1日に施行された「難病の患者に対する医療等に関する法律(平成26年5月23日成立)」にて、指定難病28番目に定められた。アミロイドと呼ばれる繊維状の異常たんぱく質が全身の様々な臓器に沈着し、機能障害を起こす病気の総称である。「アミロイドーシス」は、全身の諸臓器にアミロイド沈着をきたす「全身性アミロイドーシス」と単一臓器のみにアミロイド沈着をきたす「限局性アミロイドーシス」に分けられ、さらに遺伝的に変異したたんぱく質が組織沈着アミロイドの前駆物質となっているものを「遺伝性アミロイドーシス」という。初発症状は全身の倦怠感、体重減少、貧血症状、浮腫などの非特異的な症状である。心臓の障害、腎臓の障害(ネフローゼや腎不全)、胃腸の障害、末梢神経や自立神経の障害(手足のしびれ、麻痺、立ち眩み、排尿の異常、便秘、下痢)が起こることがある。

この文章をお読みいただいている読者の中には、「もしやこれは故アントニオ猪木さんの病気ではないだろうか」と頭の中でふと考えている方がいらっしゃるだろう。そのとおりである。お亡くなりになる10日前の

映像がYou tubeに投稿されているが、あまりにやつれた彼の姿に驚きをもって私は凝視した。

彼女の話によれば、母親がアミロイドーシスの治療に臨む姿を幼いころから見てきただけでなく、長じては妹たちの世話、家事、そして母親の世話をやってきたという。当大学が栃木の県北にあるため、実家のある茨城から通うことが出来ず、アパート暮らしとなったが、高校までは家事全般そして母親の世話をやっていて、部活などは出来なかったとのことだった。まさにヤングケアラーである。私は彼女に「ヤングケアラーでなかったら、塾などに通ってうちの大学よりももっといい大学に行っていたかもしれないね。」と話した。彼女はヤングケアラーで時間がないにもかかわらず、高校の成績は抜群に良かった。また卒業研究も秀逸だった。「アミロイドーシス」の医学的研究は多々なされているが、患者の生活支援の研究はほとんどなされていない。それを先行研究レビューにより明らかにし、次に当事者3名にインタビューを行い、生活実態とどのような生活支援を望んでいるのかをまとめた。その内容をここで記述することはできないが病状の進行に伴い、生活のしづらさが増えていく様子をはっきりとさせた。

そして現在、彼女は社会福祉士国家試験に向けて勉強に励んでいる。彼女のヤングケアラーという経験は福祉系大学に進むきっかけとなったが、その経験が将来、辛い人生を歩んでいる人たちを理解できる鍵となり、良き「社会福祉士」になるだろうと期待している。

授産製品・店舗紹介

このコーナーでは、障害のある方々が作る授産製品や販売する店舗をご紹介します。

一般社団法人 障がい者の方達と

里山の自然と命を守る会

みらいへ (就労継続支援B型事業所)

住所 足利市通2丁目2624-1 前沢ビル3階
足利市名草下町4460-1 (作業場)

HP : <http://miraie-wt.or.jp/>

電話・FAX 0284-41-9623

足利の北の自然豊かな地にみらいへの作業場がある。古民家とその周辺の田畑を作業場として、令和3年8月に開所した



比較的新しい事業所である。代表の佐藤 豊氏は、バンクミケルセン記念財団の理事を務め、みらいへ開所以前は宮城県で障がい者の支援施設を運営されていた方である。作業場の敷地内には、バンクミケルセン記念財団記念室があり、貴重な資料が展示してある。

作業は、農園作業(オーガニック野菜の栽培・販売、里山の自然の恵みを使った作品製作:里山で採った竹・松ぼっくり・栽培して収穫した綿などを使った作品の製作および販売、寄贈を受けた貴重な古書の管理・

販売、地域のお寺などの清掃などを行っている。また、アート活動として美術指導者との交流も図っている。

バンクミケルセンの目指したノーマライゼーションは、人間としての生活を目指すこと。みらいへは、障がいのある方と一緒に自然の恩恵を感じながら、地域の人たちとの交流を通し活動している。バンクミケルセンに関する展示物を拝見し、また、農園作業やその作品を目の当たりにし、単に就労訓練ということではない、人として生きていくために必要なものは何か考えさせられた。農園作業や自然の恵みを生かした作品作りは試行錯誤とのことであるが、今後の展開が楽しみである。



(長)

今日の一冊

デヴィッド・グレーバー著

『ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事の理論』

岩波書店、2020年

「誰かのため」を思っている行為って、本当に誰かのためになっているのだろうか。「権利擁護」「本人にとっての最善の利益」「自立支援」という言葉のもとに活動しているが、何を聞いても「いいよ。任せます。」というNOはないけどOKもない、「自意識的な要求の無さ」「生きるも死ぬもあなた次第」という無私的態度に途方に暮れ、「偽善」「貧困ビジネス」という言葉に真っ向から否と言い切れない。そんな自分につき合ってくれたのが、本書である。

「自分はこんなに善いことをしてあげているのだから、相手が喜んで当然だ、と思ったらそれは相手を自分にとって都合のいい道具に仕立てて、支配しているだけだから」と著者は容赦なく言い切り、「利他には、自分が勝手にやっているだけなのか」という過剰さの自覚が必要」と説く。

人と関わっていると、これでよかったのかと確証が持てないまま時間が過ぎていく。本当は自分がわかっていないのに、その状況に耐え切れずに、相手を「わからない人」にすり替えて、葛藤し、自問を続ける。「今、

この人とどう過ごすのか」「どう過ごしたいのか」と。つまり、モヤモヤし続ける。人と関われば関わるほど、自分の無力さを感じる。それでも関わり続けるのは「ひとり、ひとりと出会うことは既知を手放し、そのつど立ち上がってくる意味や価値に触れること」「ケアすることはケアされること」とする著者に共感するからだ。

「認知症」でなく、あえて「ぼけ」と使っている理由も、本書で出会ってほしい。

OWL.Tochigi LLC 阿部 千亜紀



福祉士 おもいのたけリレー

県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。

掲載内容：①氏名(ふりがな) ②所属 ③趣味 ④実践へのおもいのたけ ⑤次にバトンをつなぎたい方

- ① 栃木 憩子 (とちぎ けいこ)
- ② 株式会社T T T (トリプルティー) 理事
相談支援事業所とちぎ管理者兼相談支援専門員



令和2年に会社を設立後、翌年、児童発達支援事業「くえるぼ キッズ」を開業しました。今年はさらに、相談支援事業所を開設し、栃木市の障がい福祉サービスのより一層の充実を図るため、日々奮闘しています。

- ③ 趣味 = 「仕事」
365日24時間仕事のことしか考えていません(笑)でも仕事終わりの1杯が至福の時
- ④ 大学を卒業後34年勤務した社会福祉協議会を定年前に飛び出し、栃木県(T) 栃木市(T)の栃木さん(T)が運営する会社を立ち上げ、児童発達支援事業を中

心としたこどもの療育を始めたのは、前職での20数年にわたる実績があったからですが、前職の時代にはどうしても実現しなかった専門職による療育を、今回、理学療法士による訓練や保育士、社会福祉士等の専門職を職員に迎えることによって実現することができました。やりたかったことができ、充実した日々を過ごしています。9人しかいない小さな事業所ですが、こどもたちや保護者に寄り添いながら豊富な経験と専門的な知識に加え、熱い思いを秘めたスタッフたちに支えられての毎日は、不得意な経理や労務管理、事務仕事さえも前向きにさせてくれます。やりたいことがやれる人生はたとえ大変でも、忙しくても幸せな気持ちでいられることを実感しています。

- ⑤ 次回は、「あゆみ園」の渡辺純一様にバトンを渡したいと思います。

若手のエネルギー溢れる新社会福祉士をご紹介します。

ニューフェイス紹介

- ① 氏名(ふりがな) ② 所属(事業所名、職種)
- ③ マイブーム(趣味、特技、こだわり等)
- ④ 社会福祉士になったきっかけと抱負

- ① 久宮 美咲 (くぐう みさき)
- ② 那珂川町役場 地域包括支援センター 社会福祉士



- ③ 私の趣味はカフェ巡りです。特に珈琲が好きなので、珈琲の種類が豊富なカフェをSNSで何か所か見つけて一日に数か所回っています。
- ④ 私が福祉の道を目指そうと決めたのは、学生時代に多くの友人や後輩からよく相談を受けていたことがきっかけです。悩みを解決するために相手と一緒に物事や解決策を考え、実際に改善できた時の相手の曇りのない笑顔を見たときに人の心に寄り添える仕事がしたいと強く思いました。勿論、受けた相談の全てを解決・改善に導けた訳ではありません。自分自身が人との関わり方に悩んだ時期もあります。その時にカウンセラーや友人からか

けてもらった温かい言葉は、社会人となった現在も覚えていて辛くなった時に力をくれます。私もそんな仕事ができたらなと思い、福祉について調べ、自分の思いに合った社会福祉士になろうと決めました。

現在は、地域包括支援センターの一員として本人が安心した在宅生活を送れるように相談支援業務やケアマネジメント支援等を行っています。業務の一部である「連絡調整」では、本人や親族等への言葉遣いや声を掛けるタイミングを慎重に見分けることが今後の支援の架け橋だと実感しています。

今後は本人やその家族等が、今何に困っているかを聞き取り、困りごとの一つ一つに対して必要な情報を本人や関係機関等から情報収集できるように心がけていきたいです。また相談支援業務において制度やサービスの仕組み等を理解するために勉強にも励んでいきたいです。

情報の広場

- ① 調査研究部会報告書
- ② みやラジ出演紹介
- ③ 社会福祉士会入会キャンペーン

いちご一会とちぎ大会(全国障害者スポーツ大会)の報告をさせていただきます。

本大会は、2019年茨城(台風により中止)、2020年鹿児島(コロナ禍)、2021年三重(コロナ禍)と過去3年の中止の後、4年ぶりに開催される大会となりました。選手たちは各種大会の多くが中止となり、練習すら思うように行えない時期を乗り越えて、やっと開かれる輝かしい場となりました。大会を支える県や市町の事務局、競技団体も近年の大会の事前視察もない

まま、「ぶっつけ本番」的に大きな大会を開催することに不安を抱えながらであったと思います。そのような中、開催期間中秋晴れの好天に恵まれ、大きな事故もなく終えることができたのは大成功と言えるでしょう。

私個人は地元栃木市開催のフライングディスクの新米審判員として従事しました。公式戦デビューが全国大会という重圧の中、大会を過ごし、還暦を過ぎた老体に鞭打つ日々でしたが、選手たちが喜んで競技場を後にする姿を見た最終日は、感慨深いものがありました。

本大会を通して栃木県民が得られた様々なレガシー（おもてなしの心、障害についての理解、競技会開催のノウハウ等々）を今後活かしていく事が大切です。社会福祉士が専門職として障害者スポーツにどのように関われるのか、考える契機となることでしょう。

結びに、ご多忙の中ボランティアにご協力いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

「夢を感動へ。感動を未来へ」

南栃木社会福祉士事務所 吉澤 洋介



日本社会福祉士会全国大会の開催について

2024年6月22日（土）・23日（日）に栃木県（ライトキューブ宇都宮）において日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会が開催されます。開催にあたりましては、会員の皆様にご協力を賜りたいと存じますが、まずは、大会テーマを皆様から募集しております。採用された方は、大会参加費を無料とさせていただきますので、ぜひご応募ください。（詳しくはホームページをご覧ください）

栃木県社会福祉士会への入会キャンペーン実施中

これからの社会福祉士の発展のため、若年層の方に向けて、初年度の年会費・入会事務手数料を免除するキャンペーンを、実施しています。この機会に入会をご検討ください。

・年会費（通常料金）15,000円 ➡ 0円

・入会事務手数料 2,000円 ➡ 0円

キャンペーン期間：2022年度より3年間（無料となるのは、入会初年度のみです）

対象者：栃木県社会福祉士会への入会手続き時、30歳未満の方

栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT（プロジェクトチーム）の活動を紹介する掲示板です。

福祉士会通信

社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非会活動に参加しましょう。福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。

お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

総務企画委員会

松本 裕行

2022年11月19日（土曜日）に、2024年6月22日～23日に開催される日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会栃木大会の会場となるライトキューブ宇都宮の内覧会へ参加してきました。JR宇都宮駅改札口から徒歩2分と抜群のアクセス利便性は、催事ニーズに適應していますね。全国大会当日は多くの会員の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。大会テーマも絶賛募集中！また、SSWプロジェクトチームが第9回理事会において委員会に昇格することが承認されました。福祉と教育関係機関が連携を一層強化し、複合的な問題を抱えている児童生徒の課題解決に向けた動きが活発になる事でしょう。総務企画委員会として今後も会の運営が円滑に進むよう努めて参る所存です。

権利擁護委員会

阿部 和史

権利擁護委員会では11月初旬に虐待対応フォローアップ研修を行い、虐待対応の経験者の県内の地域包括支援センターに勤務されている職員や各市町の担当部署職員が参加されました。前半に講義を行い、後半グループワークと言う研修内容でしたが、各グループで活発に意見を出している様子がみられ、意義のある研修であったように思われます。

虐待対応センターでは新型コロナウイルスの感染が広まってからは、開催していなかった栃木県と弁護士会と社会福祉士会での意見交換会を年明けに実施予定で調整しております。虐待防止法も改正の動きがある中、意義のある意見交換ができればと考えています。

起訴前で且つ不起訴の可能性が高い福祉的な課題が見受けられる方に、検察の依頼で社会福祉アドバイザーを派遣し、面接を行い生活再建等の計画を立てる入口支援を、権利擁護委員会の中で担っています。新型コロナウイルスの感染が、拡大したり、収まったりしている中で、検察も状況を勘案しながらの依頼である為、件数は多くはありませんが、継続的に実施しており、また検察側の理解もあり、面接後、適切な支援機関に繋がっているという報告を多くいただいています。

今後も権利擁護委員会でもより良い活動を行っていく

為、他の委員会や関係機関、皆様との協力を継続していきたいと考えています。よろしく申し上げます。

生涯研修センター

富田 裕之

○研修部会（基礎研修・独自研修・実習指導者養成研修）

・基礎研修は、Ⅰ（集合研修を年間2回）、Ⅱ（同年間9回）、Ⅲ（同年間9回）開催を計画しています。コロナ禍の為、昨年度に引続きZoom開催にすることに加え、e-ラーニングを導入しました。会員の皆さんにとって、安全で安心して参加できる研修会の開催に努めていきたいと考えています。また、基礎研修修了後には、ぜひ研修委員会での活躍（特に、講師・ファシリテーター）を期待しています。

・独自（任意）研修は、栃木県士会独自の研修を企画・運営しています。5月14日（土）に一般社団法人栃木県若年者支援機構の代表理事中野謙作先生をお招きし、オンラインによる「困難を有する若者に私たちができる「ちょっと」のこと～不登校、ひきこもり成年にどう向き合うか～」と題した講義の後、会員による事例発表・検討会を行いました。また、来る3月18日（土）に「オープンダイアログ（初級編）」の開催を検討しています。詳細は案内をご覧ください。ご参加お待ちしております。

・実習指導者養成研修を、9月10日、11日の2日間、Zoomによるオンラインで開催しました。今回も、受講生の半数以上が他県からの参加者でした。また、来る3月11日、12日にも実習指導者講習会を予定しています。詳細は案内をご覧ください。

○調査研究部会

調査研究委員会では、「A市における終末期在宅医療支援の現状と課題に関する調査研修」の研究結果を7月の日本社会福祉士会社会福祉士学会で研究報告をしました。また、日本社会福祉士学会誌に論文投稿予定です。現在は、新たな研究テーマ「地域共生社会におけるソーシャルワーカーの役割と課題（仮）」を設定し、精神保健福祉士会との合同研究委

員会を立ち上げ活動しています。

社会福祉評価委員会

鈴木 康之

当委員会では、第三者評価と外部評価の活動を行っています。

第三者評価は、福祉サービス事業所の提供するサービスの質に対し評価する事業です。対象事業所は、栃木県内の保育所や障がい者・高齢の施設等となります。外部評価は、認知症対応型グループホームを行う事業所に対して評価する事業です。

どちらの評価活動も事業所の欠点等を指摘するものではなく、事業所の努力や工夫していること、力を入れて取り組んでいることを評価しています。今年度もコロナウイルスの影響により、訪問調査の内容や方法の変更を余儀なくされることとなりました。

それでも、ご利用者や事業所の方々のご理解やご協力を頂きながら、現在も活動を続けられることができ、今後も感染症対策を講じながら、安心・安全な評価活動ができるように精進して参ります。

権利擁護センター・ばあとなあとちぎ 小口 みほ子

ばあとなあとちぎは、13名の運営委員を中心に1報告書部会、2フォローアップ部会、3コーディネーター部会、4養成研修部会と4つの部会活動をしています。1報告書部会は、8月と2月の定期報告書のチェックと年2回のばあとなあ通信の発行をしています。2フォローアップ部会は、県北・県央・県南と地区別に年2回ずつ計6回研修会を開催し、事例検討や専門職による講義など、ばあとなあ会員の為のスキルアップを図っています。今年度もコロナの影響によりZoomでの研修やオンデマンド研修を実施しました。ばあとなあ会員の名簿登録更新要件で研修参加が必須となり多くの会員が参加しています。3コーディネーター部会は、裁判所からの成年後見人等の推薦依頼に対して、ばあとなあ会員より候補者を推薦します。年々家裁からの推薦依頼が増加し困難なケースもあり、また初めて受任する人等に対しても受任者の支援体制を構築しています。4養成研修部会は、2022年度人材育成研修を開催しました。受講者14名(再受講1名含む)で14名が終了しました。今年度の研修は全て対面研修を実施しました。2023年度も人材育成研修開催予定です。受講要件は基礎課程(基礎研修Ⅰ～Ⅲ)を終了または、日本社会福祉士会の旧生涯研修制度の共通過程を1回以上終了または認定社会福祉士も対象となりますので、該当する人は是非応募してください。2023年2月19日に名簿登録研修を行います。聴講生も募集しますので皆さん参加してください。



広報委員会

福原 健治

広報委員会では、ホームページや会報などを通じて、栃木県社会福祉士の活動内容の報告や研修会・求人などの情報を提供させていただいております。

今回の会報のメインテーマは、「ヤングケアラー支援」ということで、情報を集めていく中でヤングケアラーについて学ばせていただいたことは勿論ですが、社会福祉士の活動の広さを改めて、実感させていただきました。

災害福祉委員会

松本 広子

2022年度の災害福祉委員会は以下の4点を柱に活動しています。

1 栃木県社会福祉士会大規模災害時対応ガイドラインの内容整備

2021年度に策定施行されているものですが具体的な対応内容や実施タイミングをチャート化して表示します。現在作業進行中です。

2 福島県避難者支援

福島県から避難者住宅確保サポート事業を受託し、栃木県内への避難世帯への生活相談・就労支援を継続しています。東日本大震災から11年が経過し避

難者の生活課題は大きく変化しています。

3 フードドライブの実施

とちぎ福祉プラザ3階の県社会福祉士会事務局内にきずなボックスを設置。9月末時点で8.1Kgの食料品をとちぎボランティアネットワーク・フードバンクうつつのみやに提供できました。

4 勉強会の実施

8月23日(火)リモートにて災害支援に豊かな経験と実績を持つ柴田貴史氏を講師にお招きし発災時の具体的な支援について学びました。

ここまで実施してきた内容に付け加え、以降はさらに「災害時情報集約掲示板」「被災地支援活動協力員名簿」作成にとりかかる予定です。災害福祉委員はそれぞれの所属団体において事業管理者、独立型社会福祉士が多く災害発生時の社会福祉士としての役割について多くの課題を感じています。現在の委員会活動の幅をさらに増やしていくことが命題となります。

県北ブロック

福原 健治

コロナ禍の中、なかなか参集しての活動が出来ておりません。

でも、そろそろ、研修会&活動報告会(懇親会)が出来ると予想(期待)されますので、コロナ禍での苦労話などを聞かせていただきたいと思います。

独立型社会福祉士委員会

松本 佑司

開業型社会福祉士支援プロジェクトチームは1月の理事会にて委員会化がなされ【独立型社会福祉士委員会】に名称変更となりました。現在は22名の会員で構成されています。勿論既に独立・開業しているメンバーだけでなく、どのように活動しようかと検討している方もいらっしゃいます。

今年度の定例会では日頃の情報交換だけでなく、他の専門職からの講話もいただいております9月には税理士法人FMC 藤沼紀彦先生、10月にはむつめ社会保険労務士事務所佐藤智幸先生に11月には当チームメンバーでもある株式会社和 阿部和史さんにそれぞれの立場から講話を頂戴しました。

さらに内閣官房孤独・孤立対策担当室より「孤独・孤立相談ダイヤル」実施にあたって日本社会福祉士会を通じて当会にも協力の依頼がありました。当会理事より「開業のため比較的勤務調整しやすいであろう」とのことでシフト協力をする運びとなり今年度9月・12月・年末年始にもシフト協力をしてまいりました。

チームに加わるのに独立・開業が必須条件ではありません。定例会での意見交換や既に活動しているメンバーとのネットワークは日頃の業務に生かせるスキルアップにつながる可能性を感じます。加えて「他専門職から生活に関わる話」や「聞きたいけど聞けなかった開業ってどうなの?という話」等を皆様にも提供できたらと考えています。

今後は当面完全オンライン化で定例会を行いますので、ご自宅や参加しやすい場所から耳だけでもご参加してみたいかがでしょうか。

チーム活動や孤独・孤立相談ダイヤルについてもご興味ある方は【socialwork.soeshia@gmail.com 松本佑司】までご連絡ください。

スクールソーシャルワーク委員会

船山 克美

R3年度に立ち上がった本プロジェクトですが、R4年12月の理事会において委員会に承認されたことにより、「SSW委員会」になりました。今年度は、6名の運営委員を含む21人で構成されています。運営委員会では毎月1回会議を実施しました。また、昨年度も実施した県教育委員会の養成講座にも3名の委員を派遣しました。今後は、1月に定例会を兼ねた「茶話会」を企画中です。10月にホームページ上で一緒に活動できる仲間を募集しました。SSWの活動に興味があったり、研修会や自由に語り合うことを目的とした「茶話会」などに参加してみたい方などいらっしゃいましたら、ぜひご連絡をいただきたいと思います。(期限切れでも受けつけています)

講師派遣事業について

栃木県社会福祉士会では講師派遣事業を行っております。

本事業は、栃木県内の事業所等からの申し込みに応じ、会員を研修講師として派遣する事業ですが、実施にあたり、研修講師を希望する会員を募集いたします。

研修講師を希望される方は、栃木県社会福祉士会ホームページ内の下記 URL から申込書をダウンロードして必要事項を記入し、会員である第三者の推薦書

と一緒に申し込みにください。

申し込み後、理事会にて審議し、承認されれば講師派遣事業の講師として活動することができます。

なお、毎年栃木県より補助金を受けて実施をしている介護人材キャリアパス支援事業に登録されている講師は、同様の研修内容で登録となっております。

詳細についてはホームページをご覧ください。

<http://www.tochigi-csw.org/instructor.html>

フードバンクにご協力ください

新型コロナウイルスの影響で生活に困り、フードバンクを利用せざるを得ない方が急増しております。

栃木県社会福祉士会では「フードドライブ」を開設しております。「フードドライブ」とは、家庭などで食べきれないで余っている食品を持ち寄り、施設、フードバンクなどに提供する活動のことです。とちぎ福祉プラザ3階の共同事務所に「きずな BOX」を用意しておりますので、研修会や会議で福祉プラザにお越しの際には、一品でも結構ですので、ぜひお持ちください。なお、お預かりした食品は、フードバンクうつのみや「もったいない」から「ありがとう」へ (fbu2189.org) にお届けさせていただきます。また、お持ちい

ただきたい食品例(お米、レトルト食品、缶詰、乾物、お菓子など)、NG食品例(野菜、水)となりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

また、長引くコロナ禍の影響で、非正規雇用の女性や学生等が、経済的困窮で生理用品を買えない「生理の貧困」が新たな課題に浮上しております。県内のフードバンクでは食品とは別に既に配布が始まっておりますので、とちぎ福祉プラザ内共同事務所のきずなボックス、または、県内各地のフードバンクに直接お持ちいただければと思います。

なお、品物をお持ちするのが難しい場合は、事務所に募金箱も設置しております。

＜栃木県社会福祉士会メールマガジン登録のご案内＞

広報委員会ではメルマガ【栃木県社会福祉士会「情報交流の場」】で、研修会の案内や職員募集、国や県内等の新しい情報等を配信しております。

ご希望の方は下記アドレスからご登録してください。

なお、申し訳ございませんが、「docomo.ne.jp」「ezweb.ne.jp」「t.vodafone.ne.jp」等のドメインご使用のメールアドレスには配信が出来ない方もいらっしゃるの、出来ればそれ以外のアドレスでの登録をお願いいたします。

info@tochigi-csw.sakura.ne.jp

・件名に『メルマガ登録希望』というタイトルをつけて、本文に「氏名」、「会員番号」、「受信用のメールアドレス」を、メールにて送信してください。

【会報についてのご意見や投稿を募集しております！】

取り上げて欲しい内容や会報の感想、また掲載して欲しい投稿をお寄せください。

ご意見や投稿には、「会報の意見」とタイトルをつけて、事務局までFAX(028-600-1730)でお送りください。差し支えなければ、氏名、連絡先をご記入ください。匿名でも結構です。

皆様の貴重なご意見を会報作りの参考にさせていただきます。

編集後記

会報発行にあたり、ご多用の中、原稿を作成してくださった皆様、ありがとうございました。

2023年は新型コロナウイルスの流行から4年目を迎え、「共存の年」と言われており、ワクチン接種や治療薬も普及してきて、今までの生活に近づきつつあります。海外旅行も規制緩和されてきました。しかし、医療・福祉に携わる我々は、「つつらないより、つつさないように」と言われても、行動制限をしてしまいがちです。国内でもいいから、いつになったら自由に旅行に行けるでしょう。北海道の毛ガニや沖縄の青い海に早く会いたいと妄想を膨らませております。夢が現実となることを願っております。

(福原)

広告

介護用品レンタル・販売の
リーディングカンパニー

株式会社ヤマシタ



足利営業所 TEL: 0284-44-7260

宇都宮営業所 TEL: 028-643-5010

3つの強みで在宅介護をサポート

国内最大規模30年の歴史・全国60拠点以上

ご相談・ご要望にスピーディーに
対応するための365日フォロー体制

高い専門性を備えた900名の
福祉用具専門相談員

※広告掲載について、ご希望・お問い合わせの方は、事務局までご連絡ください。